



ふくろうの郷

# 施設長だより

令和8年7月号

## 「空床から考える、サービスの質」

最近、入所者様とのお別れや長期入院などにより、ふくろうの郷では複数の空床が生じています。特別養護老人ホームは、入所者様が施設を利用されることで介護報酬を受け取り、その収入によって運営しています。そのため、空床が続くことは、施設の運営にも大きな影響を及ぼします。

一方で、職員の給与や光熱費、設備の維持費などは、空床が増えたからといって大きく減るものではありません。安定した施設運営を続けていくためには、現在の状況をしっかりと受け止め、業務の進め方や勤務体制、経費の使い方などを改めて見直していく必要があります。ただし、経費を抑えることだけを目的として、入所者様へのサービスの質を落としてしまっは意味がありません。職員に過度な負担をかけることなく、限られた人員と時間の中で、よりよい介護を続けていく方法を考えることが大切です。

今後の対応については、全職員会議を開き、現在の状況や施設としての考え方を職員に説明しました。勤務体制や働き方にも関わることで、職員からもさまざまな意見が寄せられました。今回の空床は、どこかの部署や誰か一人の対応が原因で生じたものではありません。ふくろうの郷全体で受け止め、職員みんなで協力しながら乗り越えていかなければならない課題です。施設の状況を理解し、それぞれの立場で協力してくれている職員に、心から感謝しています。

では、「サービスの質」とは何でしょうか。マニュアルに沿って業務を行い、事故やヒヤリハットを減らし、入所者様の安心と安全を守ることは、介護施設として最も大切なことです。しかし、質の高いサービスとは、それだけではないと私は思っています。「〇〇さんは明るいね」「〇〇さんと話すと元気になるね」そのように、入所者様から名前を呼ばれる個性豊かな職員がいることも、施設の大きな魅力です。さまざまな経験や感性を持つ職員が集まり、それぞれの良さを生かすことで、入所者様にとっても、職員にとっても、温かく楽しい施設になっていくのだと思います。

日々の業務を当たり前のものとして続けるだけでなく、自分たちの仕事やサービスを見つめ直し、必要に応じて変化や改善を重ねていく。その「よりよい施設へ進化させていく姿勢」こそが、質の高いサービスを支える大切な土台ではないでしょうか。

施設長である私自身も、職員一人ひとりの専門性や個性、人間性に支えられ、日々多くのことを学ばせてもらっています。

一日も早く現在の状況を乗り越え、安定した施設運営を取り戻すこと。そして、職員それぞれの良さを生かしながら、ふくろうの郷をさらによりよい施設へと進化させていくこと。

そのために、これからも職員と力を合わせて取り組んでいきたいと思っています。

施設長 米井